

日野川流域 ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・23

た し ぜん がた かわ 多自然型川づくり

多自然型川づくりとは？

多自然型川づくりとは、河川の護岸整備などにおいて、治水面の安全性は確保しながらも、生物の生息・生育環境を出来る限り変えることなく、景観にも配慮して工事を行う「自然と調和した川づくり」のことです。従来のコンクリート張に替わり、じゃかご(金網に玉石や砂利を詰めたもの)や、魚のすみかとなる空隙のあるコンクリートブロックなどで河岸を整備しています。これにより、地上部には植生を回復させ、水中には水生生物の生育環境を提供します。また、直線的な河川整備ではなく、瀬や淵など川独特の蛇行形状も保存します。現在行われている全ての河川工事が、この多自然型川づくりの理念に基づき実施されています。



蛇力ゴ

日野川の多自然型川づくり事例(吉岡護岸)

米子市吉岡の新日野橋と日野橋の間にある護岸は、多自然型川づくりとして平成13年に整備されました。護岸ブロックには、植物が繁茂できるよう空隙の有る多自然型ブロックの採用、ワンド(川ぞいにある大きな水たまりの部分)を作り、稚魚などの小さな生き物のすみかとなるよう配慮しました。また階段を設けたことにより、水際に安全に近づけるようになっていきます。現在施工後5年が経ち、護岸ブロックもすっかり従来植物で覆われ、良好な自然環境が復元されています。



施工前(平成12年11月撮影)



施工後(平成14年3月撮影)



現在の吉岡護岸(平成18年6月撮影)

使用した多自然型ブロック



ブロックとブロックの間の隙間に、石や土を入れることができる。左の現在の写真から、施工前のように、植栽が回復していることが分かる。

日野川にはこの他にも環境に配慮した工法で川づくりがされている箇所があるので、どこに工夫がしてあるか見つけてみてくださいね。